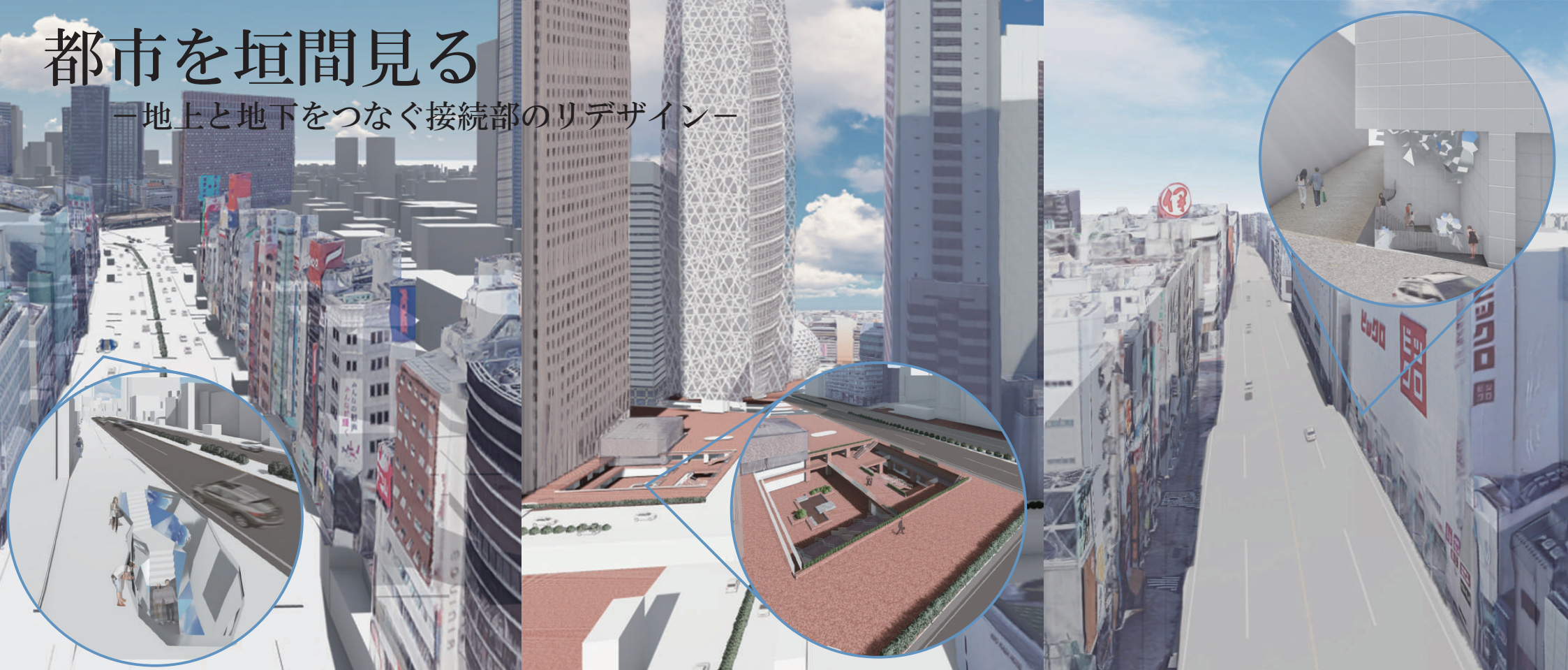


都市を垣間見る

—地上と地下をつなぐ接続部のリデザイン—



01 目指す都市像

個人の目的

都市

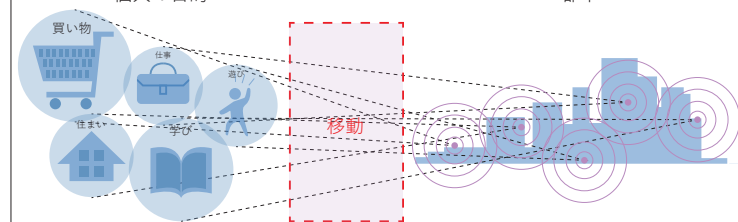


Fig1. 都市と移動の関係性

私たちが目指すポストコロナの都市像とは、「**移動中に新しい発見を創出する都市**」である。従来の都市は、個人の目的達成のため都市に用意されたコンテンツをたどっていく一連の流れの中に**移動**があった。COVID-19の影響下、私たちはこれまでになかった行動の制約を受けたことで、従来の都市構造そのものが身体的な移動を冗長しやすく、移動の先に個体同士の集合が起こりやすく作られていることに気づいた。移動によってあらぬ集合が起こると、三密行為を生みやすく、感染リスクの源になりかねないためである。私たちは、都市の中における移動のあり方を再検討し、**今まで私たちが気づかなかった都市の様々な側面に発見を与える体験を提案したい。**

02 敷地選定

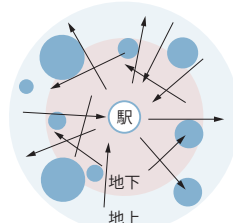


Fig2. 駅と目的地の関係性

地上と地下に街が広がる都市、新宿を敷地として選定した。街の中で起こっている移動の特徴は次のようなものが挙げられる。

- ・新宿駅を中心とした人々の移動
- ・地上と地下の接続部を往来する移動

これらが重なり合い、新宿駅周辺では不特定多数の群衆が常に移動している。

03 問題提起

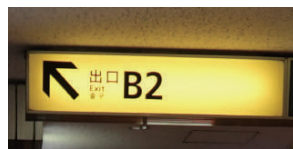
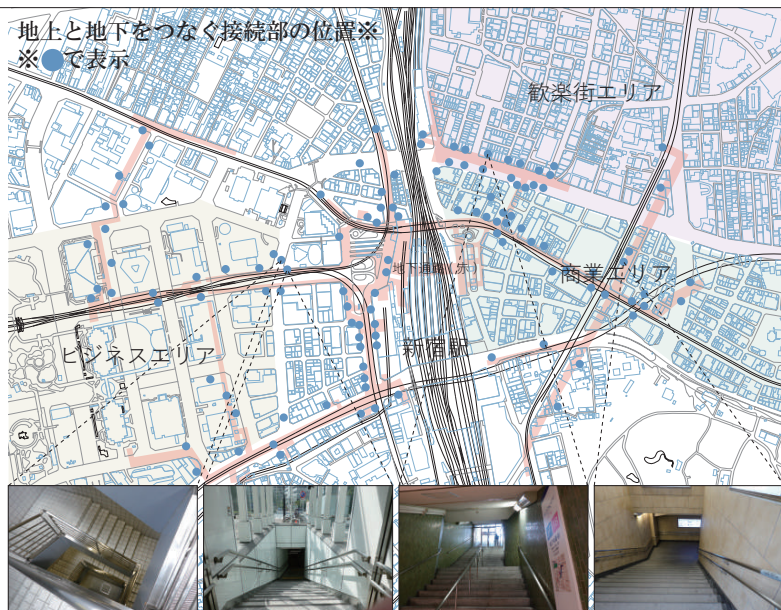
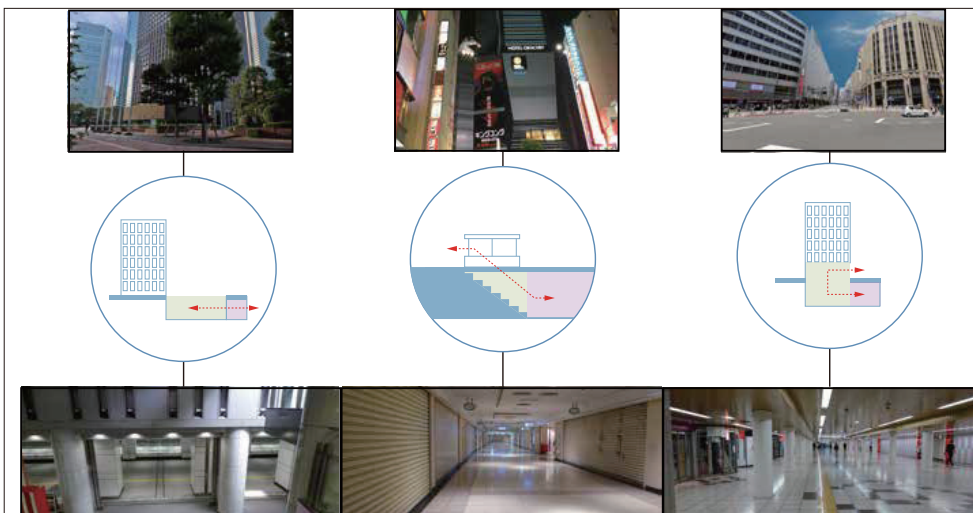
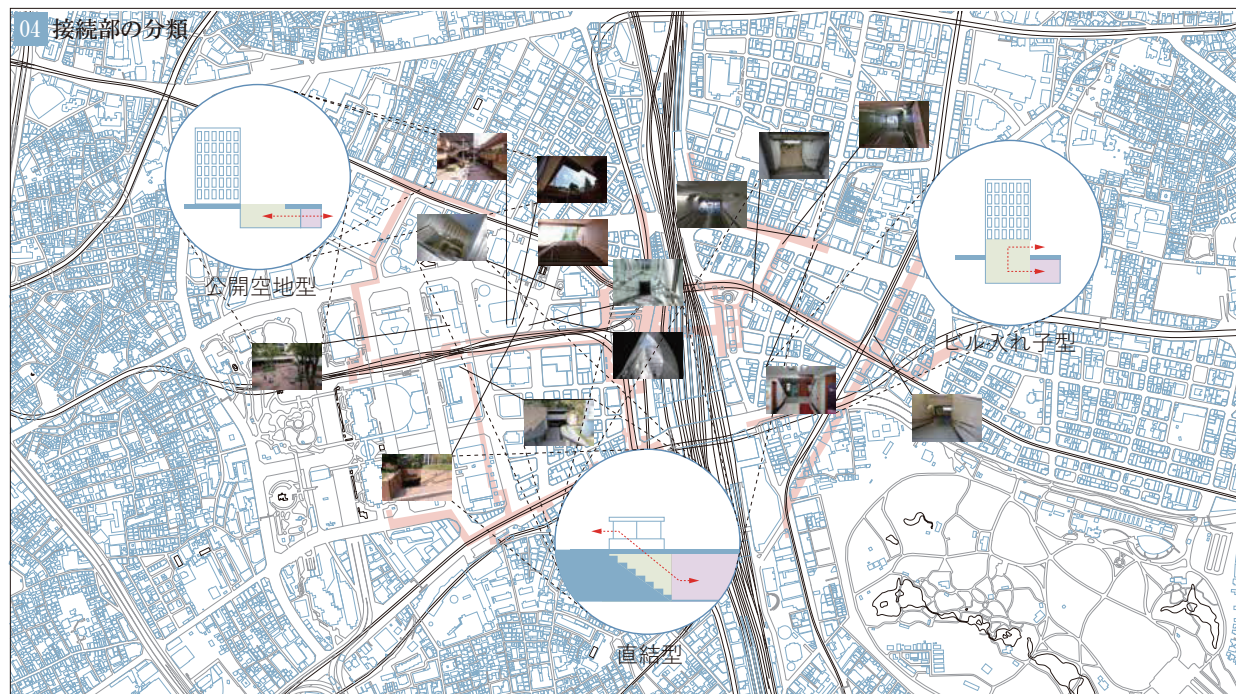


Fig3. 新宿駅出口看板

地上と地下は、接続部で「A5」「B5」のような「アルファベット+番号」の標識で割り振ってつながる。地下からは全く街並みを見ることはなく、目的地に向かって標識をたどることで移動が成り立っている。私たちは、そのような記号をただ漫然とたどる移動のあり方を疑問視して、**空間そのものが標識となるような提案を行う。**

地上と地下をつなぐ接続部の位置※ ●で表示

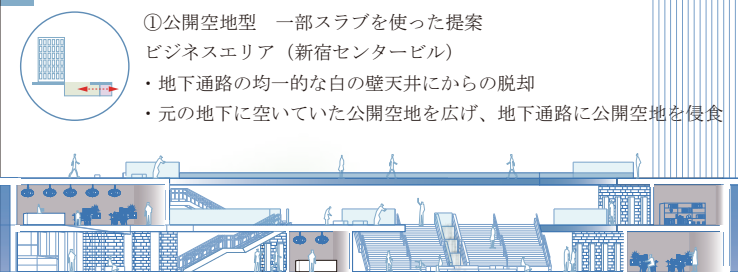




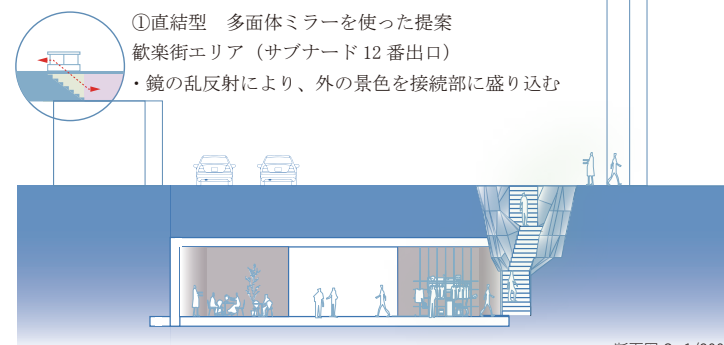
05 コンセプト 地下と地上の垣根をなくす

上記の調査により、新宿の地下通路にと地上を結ぶ接続部には、何パターンかの傾向が出た。接続部をリデザインすることによって、地上や地下にいたら見えなかったものが見えるようになり、地上と地下の垣根がなくなる。都市の移動体験は街の様々な側面を見ることによって成り立つ新たなものになる。

06 提案デザイン・断面図



断面図 S=1/400



断面図 S=1/300



断面図 S=1/300

07 パース

